



公民館等職員研修

全5回シリーズ

「種」から住民とともに育てる事業づくり

R5・6・14

第2回～「住民をその気にさせて事業に巻き込むポイント」～

【OR・アイスブレイク】

「カタルト (®)」を使って
・最近の出来事などを簡単に話した後、引いたカード「接続する言葉が書いてある(ex: 結局)」を見て話を続ける



住民を巻き込んで「話し合い」などの時に使ってみては。

【演習②-1】「事業の種」についての情報交換

- ◆イメージマップのチェック(個人)
 - ・事業に対する職員の思いが書いてある
 - ・誰が「仲間」かがわかる
 - ・誰が連携・協働相手かわかる
 - ・文字の太さや色
 - ・事業に直接結びつかなかった人・もの・ことなども残しておく



- ◆情報共有(グループ)
 - ・自分のイメージマップについて、つくりあげる過程やできあがったものの説明を行い、それに対する感想・意見等を伝え合う



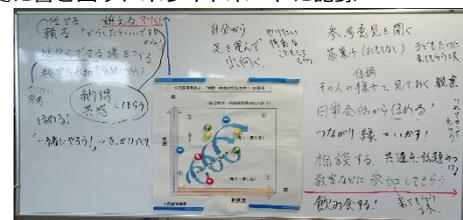
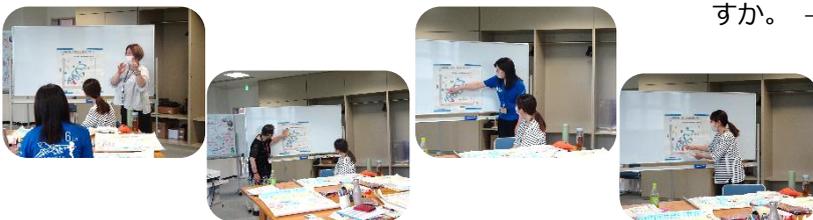
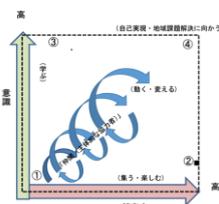
山藤調整監から一言・・・イメージマップで分かりやすく説明をされた。いい雰囲気の中、笑顔や助け船があり皆さんにつながりができてきたと感じる。一人で考えるのが苦しい時は、皆さんで話しながら対話をしながら進めておられるのは、とてもいいこと。仲間とも関係性を作りながら、さりげなくその気にさせていってほしい。

【演習②-2】住民とともに事業をつくるために

質問1 あなたが見つけた「仲間(主体的な協力者)」はどの位置にいますか。
→順番に磁石を図上に置いていく

質問2 あなたは、あなたが決めた「仲間(主体的な協力者)」を巻き込むために、どのような働きかけをしますか。 →付箋に書き出す、ホワイトボードに記録

公民館等職員と「仲間」の関係



【説明】「事業計画」について

前回説明を受けた事業づくりのポイントを意識しながら考えていく

事業に関わる「仲間」に期待する姿・思いをイメージしながら
事業計画づくりで大切にしたいこと
押しつけがましくなく、でも 何となく乗せられる
↓
仲間への「当事者意識」の醸成

例となる事業計画(事業計画シート)について説明を聞く



【演習③】事業計画づくり

○個人ワーク

1. 事業づくりのもとになった「事業の種」をイメージマップから転記
2. 事業づくりのイメージを考えて記入
3. 事業計画(1)から(6)を記入
 1. 事業名
 2. 共に「事業をつくっていく仲間」
 3. 事業の主な対象
 4. 事業を通して「仲間」や参加者全体に期待する具体的な姿や思い
 5. 職員と「仲間」がつながりたいと考える連携・協働先
 6. 予想される事業の展開案

○グループワーク

個人ワークで作成した物をグループ内で説明し、意見やアドバイスをもらう



【ふり返り】今日の研修で一番心に残ったことをキーワードで書く

受講者アンケートから (一部抜粋)

- ・ムリせず続ける
- ・絞る (協力者など)
- ・去年の振り返りが「種になる」
- ・仲間と職員の関係は親密度で高まる。そして意識向上につなげる。まずは仲良くなるために私たちが集います



- イメージがあまりわいていなかったが、話をしていく中で事業のイメージができてきた。仲間(協力者)の理解もできたのでセンターに持ち帰ります。
- 自分の活動を頑張りたい!
- いろいろなアドバイスをしてくださるのが、とても有難く助かります。
- 事業計画をつくる上でもう一度考え直すことができた。次回に向けてよく考え実践したいと思う。毎回研修に参加するたびにモチベーションがあがる。